

地域防災実践型共同研究（一般） 中間報告（課題番号：28P-03）

課題名：桜島における火山活動情報の発信に関する実践的検証

研究代表者：福島大輔

所属機関名：NPO 法人桜島ミュージアム

所内担当者名：中道治久

研究期間：平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日

研究場所：桜島（鹿児島県鹿児島市）

共同研究参加者数：5 名（所外 2 名，所内 3 名）

・大学院生の参加状況：なし

平成 28 年度 実施状況

火山活動情報の発信のあり方とその仕組みについて検証するため、(1) 桜島における 2015 年 8 月 15 日の噴火警戒レベル 4 のヒアリング調査と、(2) 火山活動情報を発信するための環境づくりを行った。

(1) 行政、火山学者、住民に対してヒアリング調査を行った結果、多様なセクター同士の日頃のコミュニケーションが情報の収集、理解、発信において極めて重要な役割を果たすことが分かった。特に噴火警戒レベルが 4 や 5 に上がるような緊急時には、それぞれのセクターが切迫した状況で対応にあたっており、他のセクターとスムーズな連携を行うことは難しい。しかし、日頃のコミュニケーションが頻繁かつ良好に行われている場合、互いの状況の理解や情報・知識の共有が行われており、スムーズな連携が可能であったことが分かった。

(2) 京都大学防災研究火山活動研究センターで開発した火山活動情報の表示システム（地震波形や地盤変動のデータ表示）を一般に公開するにあたって、いくつかの課題を解決し、桜島ビジターセンターで公開する環境を整えた。まずは第一段階として、生データに近いグラフを表示させ、桜島では精密な火山観測が行われていることを印象づけ、観光客等が火山活動の情報に関心を持つ場を提供した。

平成 29 年度 実施計画

火山活動情報の発信について、(1) 緊急時に多様なセクターがスムーズに連携できる環境を整えるため、日頃のコミュニケーションの場を用意し、(2) 火山活動情報の表示システムを活用した効果的な情報発信の手法を検討、実践、検証する。

(1) 火山地域の観光関係者、防災関係者など、多様なセクターが顔の見える関係を持つために、講演会とワークショップを組み合わせた勉強会を開催する。講演会では、単に知識を学ぶだけでなく、互いのセクターを理解するための要素も取り入れる。ワークショップでは、講演会の内容を振り返ることで理解を深めると同時に、個人同士のつながりや関係性が構築されるような設計にする。

(2) 火山活動情報の表示システムを効果的に活用するために、火山学者と観光客等（住民、マスコミを含む）の間をつなぐ「インタープリター」が解釈をつけて情報発信する体制の構築を目指し、勉強会を実施する。「インタープリター」の担い手としては、桜島・錦江湾ジオパークの「認定ジオガイド」を想定しているが、火山地域の観光関係者まで範囲を広げることも検討している。

これらの実践的検証結果をもとに、その他の火山でも応用できる防災対策のあり方についての提言を行う。